

トモちゃん 大すき

トモちゃんは、わたしの ともだち。おとなしくて、あんまりしゃべらない。ちよっと うんどうが にながて。こないだも、シヨウタくんが、たいいく 体育の あと、

「トモヨ、おまえ どんくさいな。ドッジボール、へたくそ。」  
つて トモちゃんに 言つて、トモちゃん、なきそうに なつていた。

「そんなこと、言いなよ。いやな 気もちに なるやろ。」

はらが たつて、わたしは ショウタくんに 言つたんだ。

「うわ。マツミ、こわー。」

そう 言つて、シヨウタくんは むこうへ はしつて いった。

トモちゃん、じぶんから 言わないから、みんな、あんまりしらないんだ。トモちゃんのこと。

トモちゃん、こないだ、ボールが あたつて たおれた 花だんの マリーゴールドを、ひとりで なおして いたんだ。あとで 水も あげて いたよ。前の せきの、タカシくんの 体そ  
うぶくろが おちて いた ときも、だまつて かけて あげて  
いた。タカシくん、ぜんぜん 気づいて いないんだ。黒ばんの  
チヨークも、トモちゃんが よく そろえて いる。先生も、気  
づいて いないんだと 思つて いたら、きのう、先生が トモ  
ちゃんに 言つた。

「トモヨさん、ありがとう。先生、いつも トモヨさんのおか  
げで とつても 気もちよく じゅぎょうが できるよ。」

それを 聞いて、わたし、とつても うれしく なつた。

二時間目、トモちゃんが さんすうの もんだいを やって  
いる と中に、チャイムが なっちゃった。わたし、おしえない  
で、トモちゃんが できるの だまって まって いたんだ。も  
う すこしで できそうだったから。トモちゃん、ちゃんと じ  
ぶんで できたよ。まっけた  
わたしの かおを 見て、ト  
モちゃん、にっこり わらっ  
た。わたしも とっても う  
れしい 気もちに なったよ。  
トモちゃんは、わたしを  
いっぱい うれしい 気もち  
に させて くれる、すてき  
な ともだち。わたし、トモ  
ちゃんが 大好き。



○ 先生の ことばを 聞いて、わたしが うれしく なった  
のは どうしてでしょう。

○ トモちゃんが できるのを まって いる とき、わたし  
は どんな ことを 思って いたでしょう。

○ わたしは、トモちゃんの どんな ところが 大好きなの  
でしょう。

